


行事報告書 (研修)

報告者： 金澤 忠昭

行事名	甲山森林公園・研修会
実施日時	平成27年5月7日(木曜日) 10時～15時分 天候：晴れ
場所	甲山森林公園広域
テーマ	甲山森林公園の中春の植物観察
講師	児玉勝久講師
参加者数	47名
内容 (項目と概要)	<p>観察に最適な気候なので、座学時間を短く、フィールドに多く配分された。</p> <p>児玉講師による今月の樹「キリ」では、成長の早さから来るのか、材の特性としての均質性・軽さ・燃えにくさが注目され、箆笥・金庫の内張り等へ重宝されること。花の姿や色の美しさからか、歴史的に神聖で高貴な樹とされ、時の権力者の象徴・家紋への応用、総理大臣の紋章になる。また、花では密標と雄しべ・雌しべの巧妙な配置がマルハナバチなど昆虫の背中を利用し花粉の授受をしやすくしているということを、図解と現物にて解説された。次にアカメガシワの葉の食害防御の戦略として花外蜜腺・葉裏の分泌物での蟻の誘引術について解説。また「この草(樹)なあに?大歓迎」の対象として、シャリンバイ、ヒルザキツキミソウ、オランダガラシ、ユーカリ、ゲンペイコギク、ヒペリカムを取り上げ説明された。</p> <p>その後野外観察に出かけた。コースはロングコース。(管理事務所 10:30～西入口～自然の家～なかよし池 12:00-1300～北口～展望台往復～みどり橋～管理事務所 14:40)</p> <p>花は、モチツツジ、ベニドウダン、ニワゼキショウ、タニウツギ、ヤブウツギ、コックバネウツギ、ヤマウルシ、ハゼノキ、カマツカ、ヤマボウシ、などが見ごろ。特に、仁川のハリエンジュの満開には心打たれた。一步つっこんだ解説では、アカメガシワの花外蜜腺、サルトリイバラ・ハリエンジュの刺は托葉の変化したもの、タカノツメの単葉、ニワゼキショウとオオニワゼキショウの見分け方、サクラ・コバノガマズミの托葉、ハナゾノツクバネウツギの輪生の葉、ヤマモモと見まちがいかけたヒメユズリハ、羊歯のウラジロの枝の張り出し、ヤマグワの異形葉など。</p> <p>昼食後のミニ研修はなかよし池で、古賀さつ子さん(吉川文子・米虫和子さんがサポート)の「楽しく老化防止」ゲーム3題。「ゴムバンドの指渡りで老化防止」、「混合チームのレイ(首輪)のリレーゲーム」、「後ろの人の膝の上に前の人々が次々に座り全員が座るまで我慢して足腰を鍛える」、を賑やかに遊んだ。特に全員の長い輪になった人間椅子のゲームは「なかよし池」のロケーションにマッチして童話のシーンのような雰囲気醸し出した。</p> <div style="text-align: right;">  </div> <p style="text-align: center;"><資料>今月の樹「キリ」(児玉) 中春の樹木観察(児玉)</p>
まとめ感想	<p>ヤマグワとヒメコウゾの見分け方について質問があった。児玉講師からの回答は、葉っぱでは見分けは難しい。どちらも2列互生だが、ヤマグワはジグザグしているがヒメコウゾの方がより直線的。花はヤマグワは花序が垂れるがヒメコウゾは垂れ下がらず丸い。果実はヤマグワは美味であるが、ヒメコウゾは口当たりが悪い。</p> <p>今日の観察会では樹木が、たった1か月で大きく変化していることを感じた。たとえばネジキ、リョウブなど。前月とは大違いであった。</p> <p>ギガフォンの調子が悪く、4～5人くらいしか講師の声が届かないということで、せつかくの説明が行きわたらなかつたは残念である。次回までには、整えないと、班分けを考えなければならなくなるではないか。</p>